

# 平成三十一年度 中学校入学試験問題

## 国語 (第二回)

### 【受験上の注意】

- 一、受験番号、氏名は必ず記入してください。
- 二、解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 三、用紙は使いやすいように折ってもかまいませんが、破らないようにしてください。
- 四、解答用紙、問題用紙とも持ち帰らないでください。
- 五、教室を出る時は、解答用紙を裏にして、その上に問題用紙を置いてください。

受験番号		氏名	
------	--	----	--



(答えはすべて解答用紙に書きなさい。)

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たちは小さいころからあらゆる機会に評価されてきました。ですから、いい評価をされると、それだけで最終目標を達成したと思いがちです。しかし、それは間違いなのです。

例えば学校での評価、テストの点数があります。算数で百点をとった、すごい！百点だ！バンザイ、そう言つて①あたかもそれが最終目標のように思つてしまいがちではないでしょうか。

しかし、点数を取ることが勉強することの目標なのでしょいか？算数で百点をとったから目標達成、ということでしょうか？それはまったく違います。点数を取った後が問題なのです。その算数の知識と能力を使つてどのような職業に就き、そこでどのようにその才能を活かし、素晴らしい製品を作つたり、新しいシステムを作つたりして、社会に貢献していか、自分も生きがいを見出し、社会をもっと幸せにしていけるか、本来はそれこそが最終目標なのです。点数や評価は中間地点にすぎません。

テストや評価を踏み台にして実力をつけて、実力がついたらそれをなんらかの形で使つていこう、ということなのです。点数ではなくて実力が問題です。その実力も「評価」されるためのものではなく、実際に使つていくための実力です。

1 私たちは、勉強するのは点数をとるためで、算数のテストが終われば「もう算数のことは忘れよう」ということになりがちです。次の試験は国語だから、算数で覚えたことはもうどうでもよくて、今度は国語の勉強をしようとか考える。2、勉強するのは入試のためだから、入試に通つてしまえばあとはどうでもいいと思つてしまふ。3 評価が最後にある、最終目標であると思つてしまつていふのです。

問題は、あなたがどう評価されるかではないのです。その力をあなたが社会の中でどのように使つていくかが大切なのです。学校で評価されたことよりも、それからあとで、社会的人間として社会のほうにいかにかに投げ返していかかということなのです。

例えば、調理師学校でがんばつて勉強するのは、素晴らしいコックや板前になって、美味しい料理を作る実力をつけるためです。美味しい料理は人を幸せにします。調理師学校の成績がいくら良くても、料理コンクールで一位になつても、毎日作る料理がまずければどうしようもないでしょう。「学ぶ」ことは、成績のため、評価のためではないのです。もちろん、いい成績を取ろう、いい評価をもらおうということは、勉強する励みになります。ですからテストのためにがんばつたり、コンクールにチャレンジするのはとても大切なことです。しかし、そうやって実力をつけ、それを「活かす」ことに意味があるのです。評価のための「死んだ」成績ではなく、「活かした」実力こそが大切なのです。

評価をもらうことがいけば重要なものではありません。全ての分野で百点をとることが必要なのではなく、自分が命を懸けてやるぞと決めたこと、それをやりたいと思つて続けていく中で、評価を②ステップにして実力をつけていくことが大切なのです。

評価よりも自分が成長していくこと、評価よりも **4** することが重要なのです。

それは「かけがえのない人」についても同じことです。だれだって自分がかけがえのない人間だと思いたいです。しかし、自分はかけがえのない人間だ、素晴らしい人間だと思いたい、そのことによつて自分の自己愛を満たしたい、ということが目標になってしまつては、それは「死んだ」成績と同じです。

私はかけがえのない存在だ、バンザイ、はい終了、ではあまりにAごぶげいだと思いませんか。しかし私たちは、あなたはかけがえのない人間だ、愛されるに足る人間だというふうに言われて、自分が評価された、そして目標が達成されたというふうに誤解してしまいがちなのです。テストでいい成績が取れたときのようにです。

テストでいい点数を取ったときに、③それは喜ぶべき事です。しかし、問題はその後なのです。私は愛されるに足る存在だ、素晴らしい人間だ、かけがえのない存在だ、ああ良かったと思ひ、そのあとは何にもしない、それはあまりにもかたよつた心理主義というべきでしょう。

いい評価をもらつてもその後で何もしなければ、その評価というのは

崩れていきます。算数で百点をとつた人間がその後算数を使わなければ、それはどんどんダメになっていきます。英語を何年間も勉強しても、その後使わなければ、まったく忘れてしまいます。

私はかけがえのない人間なのだと自分を自分で認識しても、その後でかけがえのない人間としての行動が続かなければ、自分がかけがえがないという認識はどんどん崩れていきます。それは当然のことでしょう。

だれか偉い先生に、「あなたはかけがえのない人間だ」と言つてもらふことも、自信になるかもしれませんが。しかしその偉い人が死んでしまつたら、おそらくそのとたんに不安になるでしょう。その偉い先生が実はインチキでたいしたことがなかったという噂を聞きでもしたら、その時にはさらに不安が掻きたてられていくはずですよ。

かけがえがない人間であるという評価は、かけがえがない人間として、かけがえのない行動を起こすという、その後の行動とワンセットになっているのです。その行動が、私がかげがえがないという意識を強化する、そして強化された意識がさらなる行動を生み出すという、意識と行動の循環がそこにはあるのです。

例えば、努力はしていても自信がなかった板前の若者が、お客さんから「兄ちゃんの握る寿司はうまいねえ」と言われて嬉しくなり、ますます努力を積み重ねて修業をして、お客さんからも「どんどん腕が上がつてるね」と言われる。成長とはそういうものです。いい評価をもらつても、それから修練しなければそこまででしょう。問題は、評価と行動のいい流れをい

かに創りだせるかなのです。その意味では「お前の寿司はまずくて食えたもんじゃない」というお客さんからの手厳しい評価であっても、それで奮起して本気でB精進しはじめれば、それは「いい評価」なのです。

巷ちまたにあふれている自己啓発本の多くは、根拠のないかけがえのなさを振りまくばかりです。そこから後、かけがえのない人間は何を始めるか、という方向にまで行かないから、読者を気持ちよくさせて、はいおしまい、不安になったらまた本を買ってくださいねとしか言っていない。

だから少しつとまた不安になってきます。そこでまた本を読んだり、セミナーに出かけていくと、またあなたはかけがえのない人間だと言ってくれる。なので、自己信頼を保つためには、永遠にその先生の言葉を聞き続け、あなたはかけがえがなくてすばらしい人間だと書いてある本を読み続けなければなりません。

そのほうが、本は売れるのです。本当に人々を目覚めさせず、自分に依存させておいたほうが、ビジネスとしては儲かる。政治家だって同じです。ほんとうに人々が目覚めては困る。選挙の時だけ、あなた達は素晴らしい、なのにこんなにウ抑おさ田たされている、その怒りをぶつけましょう、とか言います。しかし、1ヒヨウヒヨウを取るためには、みんながほんとに目覚めては困る。選挙の時だけは国民を神様扱いし、しかしそう言いながら、選挙民を依存関係に置いておくのがいちばんいいのです。

そんなことには、私たちはどうに気がついていないのでしょうか。

しかし、それでも「あなたは素晴らしい」「あなたはかけがえのない人だ」と言われると、うっとりとしてしまい、「その言葉を聞きたかった！」と私たちは思ってしまうのです。

あなたは素晴らしい。あなたはかけがえのない人だ。それはとても2ココココいい言葉です。しかし聞いただけでは何も始まりません。④その後のあなたの行動が問題なのです。

(上田紀行 『かけがえのない人間』 講談社現代新書)

問一、——線1・2のカタカナを漢字に直しなさい。

問二、——線ア〜ウの漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

問三、……線A・Bの語句の文中での意味として、最も適切なものを次の

ア〜オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A こっけい

ア、ばかばかしくて笑えること

イ、あつさりして空しいこと

ウ、さみしくてつらいこと

エ、短くてつまらないこと

オ、軽くて中身がないこと

B 精進

ア、ふり返って何度も反省をすること

イ、前に向かって勢いよく進むこと

ウ、考えてばかりしないで実際に行動すること

エ、一つのことに関心を打ち込んであげること

オ、良い行いを積み重ねること

問四、1 3には、どのような言葉が入りますか。最も適切な

ものを次のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア、あるいは

イ、ところが

ウ、ところで

エ、たとえば

オ、つまり

問五、4にはどのような言葉が入りますか。ここより前の文中から

抜き出して、漢字二字で答えなさい。

問六、——線①「あたかも」と同じ使い方をしている文を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、駅に行ってみると、あたかも電車が出発するところだった。

イ、演奏会に遅れて行ったら、あたかも一曲終わったところだった。

ウ、振り返ると、その研究があたかも後の発明のきっかけだった。

エ、あたかも時代の波に乗って、流行を作り出した。

オ、試験が終わって、あたかも合格したみたいに喜んでいた。

問七、——線②「ステップ」と同じ意味で使われている言葉を、この言葉

より前の文中から三字以内で抜き出して答えなさい。

問八、——線③「それ」とは具体的にどのようなことですか。文中の語句

を用いて三十字以内で答えなさい。(句読点や記号を含む場合は、一字に数えます)

問九、——線④「その後のあなたの行動が問題なのです」とありますが、

筆者は何をすることが大切だと考えていますか。文中の語句を用いて四十字以内で答えなさい。(句読点や記号を含む場合は、一字に数えます)

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

九十人の子供が住んでいる家がある。

『あしたの家』——天城市立三日月小学校から程近い場所に存在する児童養護施設だ。

様々の事情で親と一緒に住めない子供たちが、一つ屋根の下に暮らしている。

昨今ではより「家らしい」少人数の施設が主流となっているが、『あしたの家』は設立が古く、当分は大舎制と呼ばれるこの大規模施設として運営される予定である。

施設には子供たちから「先生」と呼ばれる児童指導職員が宿直制で二十四時間常駐している。

そしてその日、三田村慎平は希望に溢れて『あしたの家』に「チャク」ンした。

残暑がようやく過ぎた秋晴れの一日だった。

グラウンドがない学校、という風情の建物だった。

まるで昇降口のような玄関には壁一面に靴箱が備え付けられて、一つのボックスに何足もの靴が押し込まれている。その雑然とした様子が学校とは一線を画する生活感を醸し出していた。

手前から奥へと向けて整然となっていくのは、学年順に靴箱を振り分け

であるからだろう。男子か女子かによっても、整頓のレベルが変わるようだ。女子の靴が入っているボックスのほうは全体的に整っている。

低学年男子が使っているらしい区画は、完全なる1だ。小さなスニーカーがむやみやたらとボックスに詰め込まれている。

普通の家なら三和土に子供の靴が出ていたところまでアタリだが、九十人もの子供にそれを許すと玄関が溢れかえってしまう。きつと靴箱に収まるだけの靴しか持つことを許されないのだろう。

不自由な生活を思うと何とも忍びない。三田村は靴がこぼれ落ちそうになっているボックスを片付けはじめた。

三つ四つ整えたときだった。

「何やってるの」

背中からかかった声に振り向くと、ジャージを着たショートカットの女性が立っていた。

「和泉先生」

赴任前の研修で顔は見知っている。施設職員の和泉和恵だ。子供たちからは、確かかずみちゃんというニックネームで呼ばれていた。年齢は二十六歳の三田村より一つ二つ上だったはずだ。

「こんにちは、今日からお世話になります」

「知ってる。それより、何やってるの」

元々フレンドリーなタイプではないようだったが、それにしてもこのゆるやかな口調は何だ。三田村のほうも自然と怪訝な顔になった。

「何って……子供たちの靴を片付けてあげようと思つて」

①「勝手なことをしないで」

三田村としては親切心からやったことである。それを勝手呼ばわりされてカチンと来た。

「そんな言い方ないでしょう、僕は子供たちのために……」

「その『ために』が余計なことだつて言つてるの」

「余計つて、そんな」

畳みかけられるきつい言葉に目を白黒させていると、和泉はつかつかこちらに歩み寄つてきた。

思わず身構えた三田村を完全スルー、三田村が整頓したばかりのボックスをすべて引つ掻き回して元どおりに散らかしてしまふ。

「他に直した靴箱は？」

「お、覚えてません」

とつさにしらを切つたが、②無駄に終わった。和泉は三田村をじろりと睨んだがそれ以上は何も言わず、靴箱を注一瞥するやいくつかのボックスを散らかした。どれも皆、三田村が整頓したボックスである。

靴底がこちらを向いているような無法地帯な靴の突っ込み方まで忠実に再現されてしまった。

③「ひつでえなあ……」

思わず呟くと、和泉がぐるりとこちらを向き直つた。

「誰の物に触つたのかも覚えていられないなら、余計に手を出さないで」

静かだが、むやみな<sup>2</sup>ハクリヨクに溢れた声に、ぐっと呑まれた。

その呑まれたことが悔しく、半ば反射のように言い返した。

「これくらい片付けてあげてもかまわないじゃないですか。こんなぐちゃぐちゃなんだから」

「こんなぐちゃぐちゃだけど、」

和泉はAことさらに声を張り上げたわけではない。だが、三田村の肩は勝手に縮んだ。その勝手に自分の意思を裏切つた肩に腹が立つ。

「やっと靴箱の中に靴を入れるようになったのよ。担当の先生が毎日毎日注意して、やっと」

和泉の静かな声が、ねじ込むような重さで玄関に響く。

「今度は、靴箱の中を整頓しなさいつて毎日注意しなきゃいけないの。誰かがやってくれたら、絶対自分でやるようにならない」

「でも、かわいそうじゃないですか」

分がないことはそろそろ分かつていたが、退くに退けなくなつていた。自分なりの思いやりを全否定されたことが三田村を<sup>3</sup>イコジにしていた。

「普通の家だつたら、ちよつとくらい散らかしたつてお母さんが靴を揃えてくれるでしょ？ だつたら、施設の子供たちだつて、ちよつとくらい甘やかしてくれる人がいたつて……」

「あなたが毎日甘やかしてやれるの」

苛立ちの混じつた声と一緒に、和泉の目もぎつくなつた。

「九十人を毎日ちよつとくらい甘やかしてやれるの」



くうの音も出なかった。

「ここは普通の家じゃないし、わたしたちは親にはなれない。わきまえて「分かってますよ、そんなこと……」

口の中でもごもご眩いたのは完全に負け惜しみだ。

「職員室に行きましょう。施設長が待ってるわ」

廊下を先に立って歩いていく真つ直ぐに伸びた背中を追いながら、言い負かされた不満が胸の中をぐるぐる渦巻いた。

確かに施設は④「普通の家ではない。職員も親にはなれない。だが——

ここしか寄る辺のない子供たちに優しくしてやれるのは、ここで働く大人たちしかいないじゃないか。子供に必要なのは厳しさだけじゃないだろう。

そうでなくとも世間は施設の子供たちに冷たいのに——

忌々しいくらい真つ直ぐな背骨が反感をちりちり煽るので、⑤「三田村は伏し目で廊下を見ながら歩いた。」

(中略)

小学生の居室は二段ベッドが四つ詰め込まれた大部屋だ。筆筒は二棹入られて共用である。

子供が在室していたら抽斗にしまうのは自分でやらせることになっており、畳んだ洗濯物を部屋に置いておくまでが職員の仕事になる。子供が不在なら、抽斗にしまうまでが仕事だ。

三田村は小学生の頃、洗濯物を片付けるということを意識したこともな

い。きちんと畳まれた清潔な衣類が勝手に筆筒に補充されているのが当たり前だった。——就職して家を出るまで洗濯が母親任せだったことは、施設の子供たちを知るととても公言できない。一人暮らしの今でも畳むのが面倒で、取り込んだ洗濯物の中から着替えを掘ったりしている。

小学生は学校から帰ってきており、あちこちで子供たちの話し声がこだましていた。

「はい、洗濯物だよ」

和泉が部屋に入っていくと、きやあつと歓声が上がった。小学校四年生から六年生までの女兒の居室である。

「新しい先生？」

「知ってる、前にちよつと来てたよね」

「えー、あたし知らない、覚えてない」

あつという間に子供たちに取り囲まれて、三田村は目を白黒させた。

「先生、名前は？」

「三田村慎平です、よろしく」

「何て呼ぶー？」

子供たちは「みっちゃん」「ミッチー」など三田村の渾名を相談しはじめ、三田村は慌てて口を挟んだ。

「慎平ちゃんって呼んでください」

「分かった、慎平ちゃんね！」

「慎平ちゃん、宿題見て」

「分かった、宿題見て」

「ずるい、あたしも」

三田村を取り合う子供たちは左右の腕にすがりつき、引つ張り合ったり罵り合ったりたいへんな騒ぎだ。今までの人生でこれほど女の子にもてたことは他にない。

その様子には目もくれずに洗濯物を籠かごから出していた和泉が、「はいはい」と子供たちを鎮よめにかかった。

「みんな、洗濯物しまつてー。ちゃんとしないうちは三田村先生も宿題見ないよ」

子供たちはまたきやあつと声を上げた。

「洗濯物、慎平ちゃんが畳んだの？」

「やだ、はずかしー!」

そのはしゃいだ声には明らかに若い男性である三田村を 2 調子があつた。

「畳んでないよ! 俺はほら、こっちの男子の洗濯物」

「焦っちゃってカワイー」

小学生でも高学年になると、自分が女であることを計算に入れた行動が増えてくる。中には男性職員とトラブルになる女兒もいる、というのは本で読んだことがある。

気に入らない男性職員にセクハラ疑惑を吹っかけたり、逆に気に入った男性職員を誘惑したりという事例もあるというから、からかわれるくらいはかわいいものだ。

「慎平ちゃん、終わったら学習室で宿題見てね! 約束ね!」

まわりついてくる子供たちを半ば振り切るように部屋を出る。

「人懐こいですね、子供たち」

三田村はふうつと息をついた。子供たちのテンションにすっかり当てられた。

「そうね、新しい大人が来るとはしゃぐから」

「あれだけはしゃがれると吞まれちゃいますね」

「大丈夫よ、すぐ飽きるから」

身も蓋ふたもない言いように鼻白はなしろんだが、続いた言葉に不平はかき消えた。

「知らない人との距離感がおかしい子が多いの」

事情はよく分からないながらも、B退ひききならない気配を感じて、三

田村は自然と真顔になった。

「初対面なのにベタベタしすぎるでしょう?」

「はあ……まあ」

確かに、こちらが気圧けいあつされるくらいの勢いではあつた。

「ああやって試してるのよ」

試すという言葉はいかにも注不しゆふ穩当に耳に引つかかった。

「イ過剰いごうじやうにくつついていって反応を見てるの。相手が拒否するかどうか好意的な反応が返ってこなかったら、サツと離れていくわ」

きやあきやあと無邪気に騒ぎながら、実は敵か味方が観察されていた。

——それを思うと⑥背筋がすつと冷たくなった。



「あの、俺……対応、大丈夫でしたか」

「初めてとしては特に問題ないわ。ただ、揺らがないようにね」

揺らぐ、というのとはどついう意味か。三田村にはまだ分からない。それが素直に顔に出たのか、和泉は続けて説明してくれた。

「やつぱり、家庭に問題のある子が多いから。虐待を受けてた子もいるし。いろんな形で大人を試すのよ。過剰に甘えてきたり、逆にすごく反抗してみたり。それに振り回されないようにして。わたしたちがいちいち動揺するのが一番よくない」

「はい……」

神妙に頷くと、和泉が⑦ふつと表情をゆるめた。

(有川浩 『明日の子供たち』 幻冬舎文庫)

※三和土…コンクリートで仕上げた土間。古くは、叩き土に石灰・水などを加えて塗り、たたき固めた。

※一瞥…ちらつと見ること。ちよつとだけ見やること。

※不穏当…おだやかでないこと。

問一、——線1〜3のカタカナを漢字に直しなさい。

問二、——線ア・イの漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

問三、……線A・Bの語句の文中での意味として、最も適切なものを次の

ア〜オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A ことさらに

ア、特別に

イ、勢いよく

ウ、たまたま

エ、怒って

オ、素直に

B 退つ引きならない

ア、不思議でならない

イ、不安でしようがない

ウ、見過ごすことができない

エ、どうにもならない

オ、許してはならない

問四、1には、どのような言葉が入りますか。最も適切なものを次

のA〜オの中から選び、記号で答えなさい。

ア、縦横無尽

- イ、無法地帯
- ウ、右往左往
- エ、傍若無人
- オ、格差社会

問五、——線①「勝手なことをしないで」とありますが、この言葉から「和泉先生」のどのような気持ちがわかりますか。わかりやすく説明しなさい。

問六、——線②「無駄に終わった」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア、和泉先生は、子供たちが絶対に靴を入れないのを知っていたから。
- イ、和泉先生は、三田村が子供たちと靴を整頓する様子を見ていたから。
- ウ、和泉先生は、どの子供がどのように靴を入れているか覚えていたから。
- エ、和泉先生は、三田村の態度で整頓された靴箱を判断していたから。
- オ、和泉先生は、子供たちの姿で整頓された靴箱を推測していたから。

問七、——線③「ひっでえなあ……」とありますが、この言葉から「三田村」のどのような気持ちがわかりますか。その説明として最も適切なものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア、親切心から整理したのに、その行いを踏みにじるような和泉先生の残酷さに驚いている。

イ、自主的にきれいに整理したのに、その行いをほめてくれなかった和泉先生の気遣いの無さにつかりしている。

ウ、和泉先生のために整理したのに、その行いを認めてくれなかった和泉先生の無理解を嘆いている。

エ、職員や子供たちのために整理したのに、その行いを間違いだと指摘する和泉先生の考えを理解できないでいる。

オ、せっかくなきれいに整理したのに、その行いを無駄にした和泉先生の思いやりのなさにあきれている。

問八、——線④「普通の家ではない」とありますが、この場所は具体的にどのような場所ですか。文中の語句を用いて、四十字以内で説明しなさい。(句読点や記号を含む場合は、一字に数えます)

問九、——線⑤「三田村は伏し目で廊下を見ながら歩いた」とありますが、この時の「三田村」の気持ちとして最も適切なものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア、和泉先生の考えの正しさを理解してはいるものの悔しくて受け入れることができないでいる。

イ、和泉先生の考えの正しさに自分の考えの愚かさを感じて、和泉先生には敵わないと落ち込んでいる。

ウ、子供たちのことを思うと少しくらい甘やかしても良いのではと思っ  
てしまった自分の考えの愚かさ<sup>おろ</sup>に恥ずかしくなっている。

エ、子供たちの将来を考えると和泉先生の考えと自分の考えのどちらが  
正しいのか判断できないでいる。

オ、子供たちのことを思うと和泉先生のように厳しく接しなければなら  
ず、自分にはそれができるのか不安になっている。

問十、2には、どのような言葉が入りますか。最も適切なものを次  
のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア、だます

イ、嫌う

ウ、心配する

エ、からかう

オ、ためす

問十一、——線⑥「背筋がすっと冷たくなった」のは、なぜですか。その  
説明として最も適切なものを次のア～オの中から選び、記号で答えな  
さい。

ア、子供たちが何を考えているのか分からなくなり怖くなったから。

イ、いつか子供たちが離れていくかもしれないと不安になったから。

ウ、女子に嫌われたら施設を辞めさせられると思いい心配になったから。

エ、敵か味方が気がつかないうちに試されていると知り怖くなったから。

オ、子供たちに振り回される可能性があるかと分かり不安になったから。

問十二、——線⑦「ふっと表情をゆるめた」とありますが、この時の「和  
泉先生」の気持ちとして最も適切なものを次のア～オの中から選び、  
記号で答えなさい。

ア、この施設の子供たちの言動に動揺してはならないということをお伝え  
たところ、三田村が心配そうにしていたのであきれている。

イ、この施設の考え方や現状を話したところ、三田村が理解してくれた  
ので気持ちが和らぎ安心している。

ウ、職員はいつでもこの施設の子供たちを支えていく必要があるというこ  
とを話したところ、三田村が真剣に聞いてくれたので満足している。

エ、これまでに自分がどれだけこの施設の子供たちの言動に振り回され  
てきたかを三田村に話したが、理解されず笑うしなくなっている。

オ、この施設の子供は大人を試してくると伝えたのに、三田村が勝手な  
行動から失敗をして落ち込んでいるのを見てばかにしている。





